

INFORMATION *Circular*

JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■第15回総会報告	1
■第27回運営委員会報告	1
■第15回大会関係記事	
1)第15回大会を終って	平本幸男 1
2)大会に参加して	塩尻信義 2
■第8期会長および運営委員選挙について	3
■DGD原稿作製上の注意	4
■「DGD充実のための基金」について	4
■團ジーン先生記念文集について	灰野 和 4
■昭和57年度山田科学振興財団への推薦について	4
■昭和58年度山田科学振興財団, 来日, 派遣, 集会の援助申請について	6
■日本学術会議第84, 85回総会	6
■事務局より	9
■会員異動	9
■日本発生生物学会会則	14

NO. 42

AUGUST 1982

日本発生生物学会

〒113 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学理学部動物学教室内

日本発生物学会の諸組織は以下のとおりです

会 長：〒 606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部生物物理学教室
岡田節人（電話 075-751-2111 内線4196）

DGD編集主幹：〒 812 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学理学部生物学教室
山名清隆（電話 092-641-1101 内線4408または4410）

DGD編集幹事：〒 730 広島市中区東千田町1-1-89
広島大学総合科学部
天野 実（電話 0822-41-1221 内線357）

事務局：〒 113 文京区本郷7-3-1
東京大学理学部動物学教室
水野丈夫（幹事長）
竹内重夫（会計幹事）
八杉貞雄（庶務幹事）
（電話 03-812-2111 内線4432, 4433）

学会センター：〒113 文京区弥生2-4-16
学会センタービル内日本学会事務センター
日本発生物学会係（電話 03-815-1903）

入退会、会費納入、および出版物（DGD、サーキュラー等）の郵送については、上記学会事務センターに書面で御問合せ下さい。

1. 第15回総会報告

第15回総会は昭和57年5月28日午後2時10分より、国立教育会館で行われた。出席者は約50名であった。議長に米田満樹氏（京大・理・動）を選出したのち、以下のように議事が進行した。

1. 平本幸男第15回大会委員長挨拶。
2. 岡田節人会長挨拶。
3. 学会活動報告（水野丈夫幹事長，山名清隆DGD編集主幹〔水野幹事長代読〕）。
4. 昭和56年度決算報告（竹内重夫会計幹事，サーキュラーNo.41参照）。
5. 会計監査報告（山上健次郎，利根川泰遠会計監査委員）。会計監査の結果，適正であることが報告され，承認された。
6. 学会活動方針（岡田会長）。とくに，第16回大会は松山市で開催される旨報告された。
7. 昭和57年度予算案提案（竹内会計幹事）。予算案は原案通り承認された（サーキュラーNo.41参照）。
8. 会則変更の件。(i)付則第5条のDGD編集委員を12名とし，うち3名を運営委員会で，残り9名を編集主幹が指名するように改める件が計られ，承認された。
(ii)付則第2条の通常会員の会費年額を8,000円とし，賛助会員の賛助費を年額20,000円以上とする件が計られ，会長および会計幹事の提案理由の説明の後，承認された。
(当サーキュラーの会則参照)。
9. 野田善郎第16回大会準備委員長挨拶。

2. 第27回運営委員会報告

第27回運営委員会は，昭和57年5月26日午後5時より学士会館本郷分館で行われた。

出席者：岡田節人（会長），天野 實，岡田益吉，片桐千明，酒井彦一，竹内郁夫，平本幸男，毛利秀雄，水野丈夫（以上運営委員），山上健次郎（会計監査），相山正雄（学術会議），竹内重夫，八杉貞雄（以上事務局）

総会関係以外の議事は以下の通り。

1. 本年に行われる選挙の選挙管理委員を，毛利秀雄（東大・教養，委員長），酒井彦一（東大・理），安増郁夫（早大・教育）の3氏に委嘱することになった。（当サーキュラーの選挙の項参照）。
2. サーキュラーNo.41でお知らせしたDGD処分は，予定通り3月31日に頒布希望が締切られ，その後残部は処分されたことが，事務局より報告された。

3. 第15回大会関係記事

- 1) 第15回大会を終わって 平本幸男（大会委員長，東京工業大学・生物）

日本発生生物学会第15回大会は、昭和57年5月27・28・29日の3日間、東京虎の門の国立教育会館でおこなわれました。

今回の大会は開催地が東京であったこともあって、例年にない多数の参加者があり、一般講演が125題、大会参加者が292名、大会運営に参加してくれた学生を加えると優に300名を越す盛況でした。これは日本発生生物学会の躍進を示すものと思われますが、総会の席でも指摘されたように講演時間が短くなり、十分な発表や討議の時間がなくなるおそれがあるなど将来に問題を残したことと思います。

シンポジウムは江口吾朗氏のお世話で「収縮構造の発生とその役割」について5月27日15時30分より約3時間にわたっておこなわれ、定員180名の会場が殆んど満員になるくらいの盛況でした。一般講演も各会場でしばしばすわる席がないほどで活発な発表と討議がおこなわれました。大会開催中の3日間は5月としては例外的な30度を越す暑さで、また冷房の入らないために開けはなされた窓からさまざまな騒音が入りさわがしい会場でしたが、終始たいへん熱心な発表と討議がおこなわれたことは大会世話人として喜んでおります。

今回の大会のプログラム編成にあたっては大会運営に関する会員の意見を参考にして、「発生におけるパターン形成」をテーマとして粘菌から脊椎動物に至るさまざまな講演を同一会場で連続しておこなうなどの試みもいたしました。このような試みに御協力いただいた講演者や座長の方々に感謝いたします。また大会開催にあたって第14回大会委員長藤田哲也氏に有益な助言をいただきました。大会運営にあたっては加藤淑裕、酒井彦一、三木堆子、水野丈夫、毛利秀雄、安増郁夫、柳沢富雄の諸氏とその研究室の方々、および庶務、会計幹事の方々にたいへんお世話になりました。

来年松山で行われる第16回大会に再び皆様とお会いできることを楽しみにしております。

2) 大会に参加して

塩尻信義 (東大・理・動物)

発生生物学会に参加するのは2度目でこの学会に関してはあまりわからない。しかし、昨年の京都での大会は非常に充実していた印象がある。今年の大会も、5月下旬とも思えぬ猛暑のせいもあるが、全体的に参加者も多く熱気につつまれていた気がする。これは参加者が発生という現象に尋常でない興味をもっていることもあるし、又発生生物学という学問が急速な発展をとげつつあることを示すのかもしれない。

実際内容的には遺伝子工学、発生工学、細胞工学的手法等の新しいテクニックが導入され始め、発生生物学の領域がさらに広がった、あるいは新たなアプローチが可能となったように思う。もちろん、そうなるであろうことは以前からある程度予想され、既に論文になったものもあるが、そういった内容の発表をじかに聞くと、自分の研究のあり方、アプローチはこれでいいのかという思いにとらわれる。発生現象を考える上で重要なのは基本的な問いに解答を与える観察及び実験を行なうことであるので、展望もなく新しいテクニックに飛びつき過剰な知識に振り回さ

れるのは感心しないが、うまく利用されればこれら新しいテクニックはやはり有用な武器になると思われる。しかし、それと共に地味な基礎データの重要性も忘れてはならない。要するに、今回のいろいろな発表は自分自身の研究に対する反省にもつながりいい勉強になった。

今大会においては「収縮構造……」というシンポジウムが行なわれ、その会場は満員で非常な盛況であった。特にその中の「形態形成とアクチン」は形態形成のどれだけを収縮という見方から説明できるかという疑問が残ったが、形態形成をみる一つの観点を具体的に示した点で興味深かった。インビボの形態形成に関する展望まで話が進めばさらにおもしろかった気がする。そしてさらに欲をいえば発生生物学の基本的な問題を扱ったシンポジウムはもう少しあってもよかったのでは。昨年の鮮烈な印象（勉強不足のせいかもしれない）に比し、今回は若干物足りないようにも思った。現在の我々が得ることのできる知識には限界があるので、知識の羅列ではなく基本的な問題をどう解決するかという「考える」シンポジウムが望まれる。

最後に、講演の質問時間が短くゆとりがない印象もうけた。

4. 第8期会長および運営委員選挙について 第8期会長、運営委員選挙管理委員会

会長および運営委員選挙は施行細則（会則の項参照）に従って実施されるので、下記の諸点に御留意の上、郵便による投票をお願い致します。

1) 選挙に必要なものが当サーキュラーに同封してありますので御確認下さい。

イ) 会員名簿（昭和57年7月）

ロ) 投票用紙：会長、運営委員併用1枚

ハ) 郵送用封筒、宛名入り1枚

2) 被選挙人は名簿に掲載されている全通常会員です。

ただし、会則第5条第1項、第2項により、次の方々には被選挙権がありません。

イ) 会長選挙……岡田節人

ロ) 運営委員選挙……天野実、石崎宏矩、岡田善雄、片桐千明、塩川光一郎、毛利秀雄

3) 投票用紙郵送用封筒の表には、必ず選挙人の氏名および住所（所属）を御記入下さい。

4) 選挙の日程は下記の通りです。

第1次選挙（会長、運営委員）

投票締切日 10月15日（金）

開票（公開） 10月16日（土）

第2次選挙（会長、必要の場合）

投票締切日 11月15日（月）

開票（公開） 11月16日（火）

開票はいずれも午後5時より、東京大学理学部動物学教室会議室にて。

5. DGD原稿作製上の注意

DGD原稿を作製するにあたって注意して頂きたい事項が同封別紙にまとめられています。保存して活用して頂きたいという、山名編集主幹と天野編集幹事の御希望によるものです。

6. 「DGD充実のための基金」について

サーキュラー№41で会員各位にお願い致しました「DGD充実のための基金」募集は、多くの方々の御協力により、7月1日現在総額705,000円になりました。今後とも御協力をお願い致します。

基金は一口5,000円とし、

郵便振替 東京 0-44519 日本発生生物学会

あてお送り下さい。なお、振替用紙裏面に「DGD基金」と明記して下さいをお願いします。

7. 團ジーン先生記念文集について

灰 野 和（都立大・理・生物）

この度、故團ジーン先生（お茶の水女子大学教授）を偲ぶ文集が、ゆかりの方々の御寄附によりまして教え子の手により刊行されました。150部程、残部がございますので御希望なさる場合は一般書店で御予約下さい。学会出版センターの扱いで入手なさる事が出来ます。

Azure Sister : Jean Clark Dan

わが師わが友 團ジーン

團ジーン追悼集制作委員会編

頒価 3,500円

学会出版センター刊

なお、これによります収益は團生物基金に入れさせて頂く予定です。

8. 昭和57年度山田科学振興財団への推薦について

今年度も日本発生生物学会は、山田科学振興財団より、研究援助候補推薦の依頼を受けました。学会内の推薦手続は次の通りです。

1) 申請：57年10月10日までに書類を事務局宛郵送。

2) 学会内審査：57年10月中旬。

3) 財団へ推薦：57年10月下旬。

申請に必要な書類は事務局にあります。御入用の方は事務局宛御請求下さい。推薦要領は次の通りです。

昭和57年度 山田科学振興財団研究援助候補推薦要領

1. 援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人又はグループ

に対し援助します。

2. 援助の金額及び期間

イ. 金 額

(A) 1千万円前後2千万円以内の援助

(B) 3百万円前後5百万円以内の援助 併せて10数件

ロ. 期 間 1年を原則とします。研究の継続を必要とする場合は、毎年提出された推薦書に基づき選考します。

3. 推薦方法

イ. 推 薦 者 本財団が依頼した学(協)会の代表者

ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに(A), (B)おのおの1~2件

ハ. 推薦手続 推薦者は、所定の用紙又はその写しに必要事項を記入し、関連主要研究報告のリストを添え、5部ご送付願います。なお関連主要研究報告のうちから3種をえらび、その別刷もしくは写しを各報文ごとに4部ずつご送付願います。

4. 記載上の注意

イ. 黒インクで明瞭に記入して下さい。

ロ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。

ハ. 申請書第1頁欄外の脚注には記入しないで下さい。

ニ. 代表研究者は所属する大学(部等)・研究機関等の長から本援助の申込をすることについての承諾を得て下さい。

5. 推薦締切期日 本財団へ推薦書が到着する締切期日は昭和57年10月25日(月)です。

6. 選考方法 選考委員会において選考のうえ、理事会が決定します。

7. 選考結果の通知 昭和58年3月末迄に推薦者及び代表研究者等にあてて通知します。

8. 援助金の贈呈 昭和58年4月以降

9. 推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団

(Yamada Science Foundation)

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

ロート製薬株式会社内

電話大阪(06)758-1231 ロート製薬株式会社呼出

付

イ. 援助金の使途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。

ロ. 援助金から支出することのできない経費は、文部省科学研究費の場合に準じます。

ハ. 援助金の受領者に対して、必要に応じ、研究経過、研究成果又は会計について報告書の提出又は発表を求めます。

ニ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人 山田科学振興財団, Yamada

Science Foundation) の援助による旨を記載し、報文の類いによってはその別刷2部、また著書の類いによってはその1部をご寄贈願います。

ホ. ご提出いただきました推薦書及び添付資料は、お返しいたしません。

9. 山田科学振興財団、昭和58年度来日、派遣、集会の援助申請について

山田科学振興財団に申請できる援助についてお知らせ致します。必要書類は直接財団宛（前項参照）に請求して下さい。

援 助 名	募 集 開 始	締 切 日
来 日 (58年4月～59年3月分)	57年4月1日	57年11月30日
長 期 間 派 遣 (58年4月～59年3月分)	57年4月1日	57年11月30日
短 期 間 派 遣	出発月の4カ月前の15日が締切日 (例：57年10月出発の場合57年6月15日が締切日)	
学 術 交 流 集 会 (58年4月～59年3月分)	57年4月1日	57年9月30日

10. 日本学術会議第84回（臨時）総会 日本学術会議広報委員会

—改革第1次案をめぐる白熱の討議—

日本学術会議は、1982（昭和57）年2月19日、第84回（臨時）総会を開催した。学術会議改革委員会から提出された「日本学術会議の組織・運営の改革・改善について」（第1次案）をめぐる、終日、白熱した討議が展開され、同案に対する厳しい批判や有意義な提言がなされた。また、改革との関連で国際学術交流代表派遣基準（案）および地域学術交流の原則（申し合せ、案）についても審議が行われた。

「学術会議の改革は自主的に行われねばならず、各方面から期待されている」との、伏見会長の冒頭挨拶の後、改革案に基づいて審議が進められた。改革案は、昨81年4月の第82回総会で設置をみた学術会議改革委員会（委員長・岡倉副会長）によって策定されたものであるが、その背景には、中山前総理府総務長官からの本会議の改革を迫る強い要望や、本会議の速やかな自主的改革を求める報道機関の論調、そして会員の危機感等があった。その改革案（A5版31頁—「日本学術会議月報」2月号に全文掲載—）は、大きく3部から成り、第1部の総論は、改革を必要とする問題状況、改革の基本姿勢と前提、改革的基本的方向と改革・改善案を策定すべき事項、科学・技術行政機構全体の抜本的改革構想の模索等について言及している。第2部の各論では、科学者と学術会議との結びつきの強化策をはじめ、選挙制度及び内部組織の再編や、他の学術関係機関との関係改善について具体策が提示されている。最後の第3部は、改革・改善案の策定の段取りやその実現の方途を明らかにしている。

この改革案をめぐる、発言者は延べ50人に及んだ。総論・各論をとおして、その多数が基本的に賛意を表しながらも、他方では部分的批判や積極的提言を行い、さらに改革問題に関する政府

自民党の態度に危機感を表明した。

総論に関するおもな意見を挙げると——(1)改革の基本的要素にアクセントをつけて、学術会議の任務が何であるかを科学者や国民に明示すべきである。政府の国益中心の一面的科学技術政策を、巨視的・全面的立場からは是正してゆくことこそ、学術会議の使命だ。(2)学術会議は学問の基礎的研究を軽視したことに対する自己批判を怠っており、科学者から遊離している最大の理由も実は、学術会議が批判的精神を失い、また学問の最先端で役に立っていないむきもある。(3)学術会議の政府からの「独立性」について、改革案の姿勢が弱い。単にその法的根拠を挙げるのみならず、学術会議創立の原点に立ち帰って、独立性の基本的論理を明確にすべきである。(4)自民党・政府の学術会議に対する姿勢はきわめて厳しいものがあり、適確な情勢判断をもち、科学者の総力と国民の支持を得て対処する必要がある。外部の学識経験者をはじめ政府や政党等の関係者からも積極的な意見聴取を行うべきだ。

各論の「科学者との結びつきの強化」について——(1)各常置・特別委員会等で検討している重要な問題や総会での審議内容を、学協会誌等に掲載して一般科学者に周知させる必要がある。(2)研究連絡委員会(研連)委員長を会員と同等に取扱い、総会に参加させてはどうか。研連委員は、男女バランスのとれたものにして欲しい。(3)有権者に大胆に依拠し、自発的拠金を求めたり、関係資料の有料配布を考えたかどうか。

さらに、同じ各論のなかの「選挙制度及び内部組織の再編」について——(1)投票用紙の受取人不明による返送率を気にしたり、立候補者用葉書の使用を禁止しようとする姿勢は、官僚主義的、事大主義的で賛成しかねる。(2)地方区選挙制度の廃止には反対。有権者との結びつきという点で地方区制度は重要であり、しかもその地方区から選挙で選ばれたという実績は無視できないものがある。(2)地方区選挙で無競争の場合でも、信任投票の意味で投票を行うべきだ。(3)地方区運営費が少なすぎる。

こうした意見に対し、岡倉委員長や渡辺洋三幹事長などから種々回答や説明があったが、総会として改革案の賛否を決するまでには至らず、以上の審議状況と第1次案に関する全会員の意見書の提出、学協会等からの意見聴取等をふまえて第2次案を策定し、次の総会で審議を進めることになった。学術会議をとりまく厳しい状況を反映してか、終始、会場には格別の緊張感がみなぎっていた。出席率も、88.1%であった。

なお、国際学術交流代表派遣基準(案)は、本会議の代表派遣が他の省庁のそれと性格上異なる点を明確にすることを骨子としたものであり、また、地域学術交流の原則(案)は、アジアなど特定地域の国際学術交流が5原則(平和への貢献、汎世界的等)に基づいて行われるべきことを主眼としたものである。いずれも、全体的に肯定的評価を受けたので、さらに学協会にも諮り、成案を得た後、次の総会に提案される予定である。

日本学術会議第85回総会報告

—学術会議改革試案を採択—

多くの懸案をかかえ注目されていた日本学術会議第85回総会は5月19・20・21の3日間にわたり開催された。この間に161件の報告、8件の議案が提出されたが、終始活発な質疑討論の後、議案は原案どおり、あるいは若干の修正のうえで、すべて承認された。採択された改革試案（「月報」5月号掲載）をもとに今後学・協会をはじめ広く各方面の意見を求めることとなり、学術会議の自主改革に向かって大きく動き出すこととなった。

会長あいさつ及び諸報告について

開会あいさつの中で伏見会長は前日の各部会で改革第2次案に多くの意見が出されたことに触れ、総会での活発な審議を期待すると述べると共に、種々の困難はあるが、科学者の総意を結集して自主改革を進めたい、また今総会で認められれば改革案を叩き台として各方面への働きかけを強めたい旨を表明した。

続いて、口頭あるいは文書による161件の諸報告が行われた。

会長からの科学技術会議報告に関連して、科学振興調整費の重要性からみて、学術会議として会長をバックアップするための何らかの組織が必要との意見があった。

「改革第2次案の取扱い（申合せ）」について

今総会の重要議題の一つである本件については、第1日目午後から第2日目午前にかけて、6時間を超える真剣な討議が展開された。

今年2月の第84回臨時総会で示された第1次案に対して、その後提出された会員、有権者の意見メモなどを参照して、改革委員会が作成した第2次案を「本会議としての改革試案として学・協会、科学者その他関係方面に提示して意見を求めることを了承する」との申合せが提案され、若干の修正を加えてほぼ満場一致で可決された。

同試案は、第1部改革の基本的考え方、第2部個別の提案から成っている。

「基本的な考え方」をめぐる論議

審議のなかで「自主改革」の「自主」の意味が質問されたが、会長は「210人の会員だけで改革するのではない、現会員で案をつくり、それを科学者その他各方面に提示して意見を求め、最終的には学術会議総会で決める」と答えた。

また、従来すべての科学者の意見を結集し、科学行政に反映する努力が足りなかったこと、より多くの有権者登録をはかる必要があること、会員のあり方を明確にすること、学会代表者の審議への直接参加の道を開くことなどの意見が出された。

個別の提案について

地方区問題については、地方区活動の重要性を認めつつも、選挙制度としての地方区のあり方が論議の焦点となった。結局、改革委員会から改めて提案された「地方区組織活動の重要性は認めるが、選挙制度としての地方区については全国区選挙との関係を考感して抜本的に見直しを行

う」ことで承認された。

「有権者、学・協会との結びつきの強化」・「選挙制度及び内部組織の再編」についても種々の意見が出されたが、直接選挙制を堅持し自主性、独自性を有する国の機関としての学術会議の任務と役割を果たすことをめざす点では一致していた。

今後の改革案策定作業を精力的に推進するために、改革委員会に必要な分科会を設置し、委員の増員をするなどして活動を強化することをきめた。

「核戦争の危機と核兵器廃絶に関する声明」について

この案件も今総会の主要議題の一つであった。

核兵器廃絶はもはや議論の段階ではなく実際の課題であり、各国政府の行動する意志こそ重要との認識に立って、今こそわが国政府が国際社会を軍縮に向けて動かす原動力となるべき特別の責任を負っているとわれわれは確信する。学術会議は、創立以来平和に対する科学のあり方に重大な関心を払ってきたが、核によって国の安全をはかるという考え方からの速やかな脱却と新しい国際秩序の形成の必要性を強く認識し、科学者がその方途の探究に寄与することが不可欠と考える。われわれは各国政府の良識に切に期待するとともに内外の科学者に向かって理解と連帯を訴える。

との要旨の声明案が、平和と科学特別委員会と平和問題研究連絡委員会から共同提案された。これに対し、声明を出すことに反対もしくは消極的な意見、それへの反論などの活発な討議の後、賛成多数で可決された。

その他の議案について

以上のほか、「国際地球観測百年記念に際して（声明）」、「日本学術会議の関与する特定地域国際学術団体との学術交流について（申合せ）」、「国際会議代表派遣要領の改正について」、「日本学術会議会員選挙規則の一部改正について」、「第12期における第85回総会以降の研究連絡委員会等の組織・運営について（申合せ）」が提案され、いずれも原案どおり可決された。

11. 事務局より

サーキュラー№41、2ページの昭和56年度決算報告、支出の部最下段は、1,854,938が正しい数字でした。訂正致します。

12. 会員異動

＜新入会員＞

大石 昇 東大・理・動

斉藤 修治 全薬工業KK. 研究所
微生物生化学部門

（①テーマ、②材料）

①棘皮動物卵のDNA合成に関する問題

②キヒトデ、イトマキヒトデ他

①再生現象および胚発生における形態形成場、
位置情報等理論の実験的確立

②*Drosophila*, *Amphibia*

山 村 英 樹	三重大・医・二解	①哺乳動物の着床前発生。 小脳の正常および異常発生。
宮 崎 俊 一	自治医大・一生理	②マウス, ラット, チャイニーズハムスター ①初期発生における卵の電気生理学 ②ゴールデンハムスター, マウス, イトマキヒト デ etc.
利根川 泰 遠	埼玉大・理・生体制御	①細胞接着と細胞間相互作用 ②ウニ胚
三 木 堆 子	お茶大・理・生	①細胞運動, 初期発生 ②ウニ, ヒトデ, 原生動物
品 川 敦 紀	京大・理・動	①両生類卵を中心とする初期発生, 卵割周期に関する問題 ② <i>Xenopus laevis</i> 他
嶋 田 拓	東大・理・動	①DNA複製調節, 遺伝子活性発現調節 ②ウニ, ヒトデ, ラット
神 野 耕太郎	東京医科歯科大・医	①生理機能の初期発生と分化(特に, 心臓機能, 神経機能) ②ニワトリ胚
吉 田 昭 広	上智大・生命研	①鱗翅目昆虫の翅における鱗粉の分布パターン ②鱗翅目昆虫(多数)
三 田 いづみ	京大・理・動	①ヒトデ胚原腸陥入開始の計時機構について ②イトマキヒトデ
土 門 正 治	東京医科歯科大	①哺乳動物の発生・生長の細胞生物学 ②マウス
小 林 英 紀	九大・理・生	①初期発生における遺伝子発現の調節機構 ②アフリカツメガエル
遠 藤 剛	筑波大・基礎医・薬理	①筋細胞・非筋細胞の細胞骨格系タンパク質の発生・分化と機能発現との関係 ②ニワトリ, ヒト骨髓性白血病細胞
白 吉 安 昭	京大・理・生物物理	①テラトカルシノーマの分化 ②マウス
謝 厚 祥 (Xie Hou xiang)	京大・理・生物物理 (復旦大・生物・遺伝)	①奇形がん腫細胞の分化能 ②マウス
三 田 雅 敏	早大・教育・生	①脂質代謝, 糖代謝 ②ウニ

山 下 茂	東大・医・薬理	①細胞周期の調節機構 ②骨格筋細胞（ニワトリ）， <i>Xenopus</i> 卵
三 川 隆	東大・医・薬理	①初期発生における卵細胞質の分化に対する役割
柴 芳 樹	広大・歯・口腔生理	①chemoreceptor の development. proliferation and differentiation. ② <i>Hydra japonica</i> , <i>Corydoras aeneus</i> , <i>Xenopus laevis</i> , cultured cells
小 穴 孝 夫	国際基督教大・教養・ 理学科	①性分化，体外培養，磁場の催奇性 ②キイロシ ョ ウジ ョ ウバエ
武 市 哲 郎	京大・理・動	①卵付活 ②アフリカツメガエル
高久保 文 恵	東京医科歯科大・歯・ 顎研	①培養ラット胎仔における顔面とくに一次口蓋の 形成について ②ラット胎仔
唐 沢 容 子	名大・理・分子生物	①分化転換 ②ニワトリ胚
金 子 洋 之	名大・理・分子生物	①「培養心筋細胞に癌化は起こるか？」 「心筋細胞の発生と分化」 ②イモリ，マウス，ウズラ等
角 川 裕 造	名大・理・分子生物	①多細胞生物の組織（特に上皮）の形態形成 ②イトマキヒトデ，マウスなど
西 宮 千 笑	国立遺伝研	①位置情報と細胞分化 ②チクビヒドラ
西 川 彰 男	熊大・理・生	①In vitro での精子形成および減数分裂 ②イモリ
庄 司 敬	愛媛大・理・生	①ホヤの変態における尾組織の役割 ②ホヤ
吉 川 秀 樹	阪大・医・整形外科	①骨・軟骨組織の発生，増殖，分化 ②マウス骨肉腫（BFO骨肉腫）
岩 田 峰 夫	名大・理・生	①細胞間物質とその生合成 ②ウニその他の海産無脊椎動物
早 川 智	日大・医・医	①胎児抗原。組織相互作用と分化 ②マウス

高岡 邦夫 阪大・医・整形外科

広海 健 東大・理・物理

金谷 一司 愛媛大・理・生

日下部 守昭 名大・医・三解

山本章 嗣 京大・理・植

福沢 利彦 東北大・理・生

丹 京子 愛媛大・医・一解

石田 秀司 京大・理・植

清水 信幸 阪大・医・整形外科

早乙女 京子 横浜市衛研

隅田 寛 広大・原爆放医研

樋口 源一郎 樋口生物科学研

景浦 宏 九大・理・生

生沼 勉 上智大・生命研

山田 武 放医研・生

- ①骨形成のメカニズム
- ②Dunn osteosarcoma, bone, cartilage
- ①発生遺伝学, 行動遺伝学
- ②キイロシヨウジヨウバエ
- ①ウニ卵の繊維構造形成について
- ②パフンウニ, アカウニ, ムラサキウニ
- ①発生時における上皮-間充織の相互作用によっておこる上皮細胞の機能分化について
- ②マウス胎仔下垂体
- ①細胞分化と微細構造
- ②細胞性粘菌キイロタマホコリカビ
- ①色素細胞の培養
- ②アフリカツメガエル
- ①甲状腺原基形成に関する形態学的研究
- ②ラット
- ①細胞分化とパターン形成
- ②細胞性粘菌
- ①骨・軟骨組織の増殖及び分化
- ②ウィスター系ラット胎児
- ①キョクヒ動物の染色体
- ②キョクヒ動物(ウニ, ヒトデ類)
- ①心臓の発生学的研究
- ②各種脊椎動物
- ①細胞性粘菌の生態と細胞分化の研究。ミツバチ他昆虫の感覚器官分化と機能の研究
- ②ディクチオ型細胞性粘菌, ミツバチを含む昆虫 (Order Hymenoptera)
- ①発生工学
- ②アフリカツメガエル
- ①両生類幼生の変態について, その発生学と生化学
- ②*Rana catesbeiana*, *Xenopus laevis*
- ①哺乳類胚初期発生
- ②マウス

古 野 伸 明	九大・理・生	① <i>Xenopus laevis</i> 初期胚における rRNA 合成 ② <i>Xenopus laevis</i>
大 室 弘 美	都臨床研・筋肉	①生化学的発生学 ②ニワトリ筋肉, ショウジョウバエ筋肉
清 水 裕	東北大・電通研	①生物系の自己組織現象 ②チクビヒドラ

<住所変更>

	新	旧
成 瀬 一 郎	愛知県身障者コロニー・発達障害研	愛知看護短大
馬屋原 宏	武田薬品中央研・薬剤安全研	京大・医・二解
青 山 裕 彦	福井医大・一解	京大・理・生物物理
小早川 義 尚	九大・教養・生	京大・理・動
野 村 一 也	九大・理・生	京大・理・生物物理
原 幸 喜	愛知学院大・生	Hubrecht Lab., The Netherlands
堀 令 司	Dept. Zool., Natl. Univ. Singapore Singapore	富山市奥井町19-20 メゾン奥井 601
江 坂 高 志	大阪府科学教育センター・生	京大・理・動
大 木 健 市	名古屋市瑞穂区膳棚町 2-37	名大・教養・生
海 保 正 義	横浜市大・医・解剖	横浜市大・医・薬理
来 原 兄 忠	太田市宝町 264	日本メルク万有・生化研
塚 原 潤 三	鹿児島大・理・生	埼玉大・教養・生
松 尾 朝 紀	日本ペーリンガーインゲルハイム・ 川西医薬研	日本ペーリンガーインゲルハイム・ 日本薬理研
山 合 友一郎	岡山大・歯・第二口腔解剖	昭和大・歯・第一口腔解剖
荒 木 和 男	名大・理・臨海	日赤大阪血液センター
和 田 圭 司	大阪府南河内郡狭山町大字半田 645 金剛ハイツC-2	阪大・医・二内
高 橋 和 秀	都立大・理・生	三菱生命研
朝 倉 英 則	奈良県磯城郡田原本町大字千代 349-32	琉球大・理工・生

<改 姓>

高 橋 真由実	(旧姓松本)
---------	--------

＜退会会員＞

真野嘉長, 浜野理一郎, 茶谷文雄, 和合治久, 山本博章

＜賛助会員退会＞

松浪硝子工業

13. 日本発生生物学会会則

会則は本則・付則・選挙細則よりなる。

本 則

第 1 条 本会は日本発生生物学会 (Japanese Society of Developmental Biologists : 略称は J S D B) という。

第 2 条 本会は発生生物学の進歩と普及をはかることを目的とする。

第 3 条 本会はその目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 欧文誌の刊行
2. 大会の開催
3. その他本会の目的達成に必要な事業

第 4 条 本会の会員は通常会員, 賛助会員の 2 通りとする。

1. 通常会員は本会の趣旨に賛同し, 所定の手続を経て, 通常会費を納めたもので, 欧文誌などの刊行物の配布を受ける。また, 大会での研究発表の申し込みをすることができ, 総会の議事に参加することができる。
2. 賛助会員は本会の趣旨に賛同し, 本会の承認をうけ, 所定の賛助会費を納めた個人または法人で, 欧文誌などの刊行物の配布をうける。

第 5 条 本会には次の役員をおく。

会長 1 名・運営委員若干名・幹事若干名 (うち幹事長 1 名)・欧文誌編集委員若干名 (うち編集主幹 1 名)・会計監査 2 名

1. 会長は本会を代表し, 会務を統べる。任期は 2 年とし, 連続 3 期つとめることはできない。
2. 会長および運営委員は運営委員会を構成し, 本会の要務を審議し会の運営にあたる。運営委員会は会長・3 名以上の運営委員・30 名以上の通常会員のいずれかの要請により開かれる。
運営委員の任期は 2 年とし連続 3 期をつとめることはできない。会長が不測の事故などによりその任務を遂行できなくなった時は, 運営委員会の議を経て会長代行をおくことができる。
3. 幹事長および幹事は会長を助けて庶務・会計などの日常の会務を処理する。
4. 会計監査は前年度の決算を監査する。

5. 欧文誌の編集主幹および編集委員は編集委員会を構成し、編集に関しての一切の責任を負う。編集主幹および編集委員の任期は3年とする。
- 第6条 本会の会計年度は1月1日に始まり同年の12月31日に終る。
- 第7条 本会は原則として年1回定時総会を開き、会務を協議し、議決する。なお会長が必要と認めたときには、臨時総会を開くことができる。
- 第8条 本会は定時総会のとき大会を開き研究発表などを行う。大会には大会委員長1名と大会委員若干名をおく。大会委員長は会長が委嘱し、大会委員は大会委員長が委嘱する。大会の運営は大会委員長の責任において行なう。
- 第9条 通常会員が会費を1年以上滞納したときには除名することがある。
- 第10条 本会は地方支部をおくことができる。
- 第11条 本会の会則の変更は総会において協議し、出席会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

付 則

- 第1条 本会の事務所は運営委員会の議をへて会長が委嘱する。
- 第2条 会費は次の通りとする。
1. 通常会員は年額8,000円を年度始めに納入する。
 2. 賛助会員の賛助費は年額20,000円以上とする。
- 第3条 会長および運営委員の選出方法は次の通り定める。
1. 会長および運営委員(14名)は、通常会員の投票により選出される。その際、会員はそれぞれ若干名の候補者を推薦することができる。
 2. 選挙の管理は運営委員会が委嘱した選挙管理委員(3名)が行なう。
- 第4条 幹事長および幹事は会長が委嘱し、運営委員会の承認をうける。
- 第5条 欧文誌の編集主幹は運営委員会が委嘱する。編集委員は12名とし、まず運営委員会が3名を選び、残り9名は編集主幹が指名する。
- 第6条 会計監査は運営委員会の議を経て会長が委嘱する。
- 第7条 本則第3条3項に定める事業を行なうために、委員会を設けることができる。
委員は会長が委嘱し、うち1名を委員長とする。
- 第8条 運営委員会は少なくとも10年毎に、広く会員の意見を聞き、本会のあり方に関して根本的な再検討を加えねばならない。
- 第9条 本会則は昭和47年1月1日より施行する。

申し合わせ事項

1. 毎年1月1日から総会までの会の運営は会長の責任による暫定予算によって執行し、その会計年度の予算とともに総会で承認を受ける。

2. 日本発生物学会発足10年目の反省に基づき、会長は、上記の選出方法によって選出された委員以外に3名以内の委員を別に委嘱することができる。

脚注：1 1971年8月25日第4回総会にて承認。

脚注：2 付則の第1条、第2条、第3条は昭和49年6月22日、第7回総会に於て変更した。

脚注：3 昭和51年5月28日、第9回総会に於て前文を追加、本則第5条、第11条、付則第3条を変更した。

脚注：4 昭和57年5月28日、第15回総会に於て付則第2条、第5条を変更した。

会長選挙施行細則

第1条 本細則は会則に定められた会長の選出に関する手続である。

第2条 選挙の施行に関する一切の管理は選挙管理委員（委員は委員会を構成し、1名を委員長とする）の責任の下で行なう。

第3条 選挙は通常会員の単記無記名投票によって行なう。

1. 投票用紙は選挙管理委員会所定のものに限り、所定の期日までに到着するよう郵送されなければならない。
2. 投票用紙には被投票者の姓名を明記すること。ただし、同姓同名の被選挙人が2名もしくはそれ以上ある場合は、住所・所属機関名などを付記すること。

第4条 第3条に従って記載された投票を有効とする。ただし、2人もしくはそれ以上記名されたり、なに人を指すか判別不可能な記名があった場合は無効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行なう。

第5条 第1次選挙において有効投票の過半数を得たものを当選者とする。過半数を得たものがないばあいは得票数の多いもの3名を第2次選挙の候補者とする。ただし、上位3番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が4あるいは、それを越える場合には、これら同数得票者を第2次選挙の被選挙人とし、第3条に従って単記無記名投票とする。

第6条 第2次選挙において最多票を得たものを当選とする。ただし、最多得票数が2名もしくはそれ以上ある場合は管理委員の抽選によって当選者を決定する。

第7条 選挙の結果はただちに会長に報告され、当選者への通知は選挙管理委員長名で行なわれる。

運営委員選挙施行細則

第1条 本細則は、会則に定められた運営委員の選出に関する手続である。

第2条 （会長の場合と同じ —— 省略）

第3条 選挙は通常会員の14名連記無記名投票によって行なわれる。

1. 投票用紙は選挙管理委員会が定めたものに限り所定の期日まで到着するよう郵送されな

ければならない。

2. 投票は14名連記とし、被投票者の姓名を明記すること、ただし、同姓同名の被選挙人が2人もしくはそれ以上ある場合は、住所・所属機関などを付記すること。

第 4 条 第3条に従って記載された投票を有効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行なう。

第 5 条 当選者は得票数の多いもの14名とする。ただし、得票数で上位14番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が15あるいはそれを超える場合は下位の同数得票数について選挙管理委員の抽選により当選者を決定する。

第 6 条 会長が運営委員より選ばれた場合は次点者をくりあげる。

第 7 条 (会長の場合と同じ —— 省略)

〔賛助会員〕 五十音順

アロカ株式会社 (〒181 三鷹市牟礼6-22-1)

株式会社 小澤製作所豊田営業所 (〒471 豊田市広久町5-27-4)

合資会社 木下理化工器製作所 (〒460 名古屋市中区千代田5-22-11)

株式会社 栄屋理化学岡崎営業所 (〒444 岡崎市大西町字南ヶ原12-219)

株式会社 商新名古屋営業所 (〒462 名古屋市中村区槇が丘1-6 志賀コーポ101)

日製産業株式会社 (〒453 名古屋市中村区名駅4-6-18 名古屋ビル)

株式会社 培風館 (〒102 千代田区九段南4-3-12)

ベクトン・ディッキンソン・オーバーシーズ・インコーポレイテッド
(〒107 港区赤坂8-5-34 島藤ビル)

三菱化成生命科学研究所 (〒194 町田市南大谷11号)

ヤマト科学株式会社名古屋営業所 (〒456 名古屋市熱田区波寄町48)

理工学社 (〒113 文京区本駒込5-9-10)

和研薬株式会社 (〒606 京都市左京区北白川西伊織町25)

6月/新刊

哺乳動物の初期発生

—— 基礎理論と実験法 ——

妹尾左知丸・加藤淑裕・入谷 明・鈴木秋悦・館 鄰／編集

■ 進展する初期発生研究法のすべて.....

基礎理論と実験法に二大別し、基礎理論編では、着床に至るまでの基礎的事項を実験法への足がかりとしてまとめ、実験法編では、現在使われている種々の技法を広く包括するとともに、各領域で活発に研究している一線研究者の独自の技術を含めて具体的にわかりやすく詳述。哺乳動物初期胚を使って研究する人には最良の手引書であり、関連分野の研究者、生物教諭の方がたが、進展する初期発生の新しい知識を得るためにも絶好。

B5判 箱入 480頁(本文総アート) 定価 12000円 千400円

〔主要目次〕 基礎理論 1. 着床前
2. 着床 3. Feto-Maternal Relationship 実験法 4. 性周期と排卵
5. 授精法 6. 初期胚の培養 7.
初期胚の保存 8. 初期胚の移植
9. 初期胚の代謝研究法 10. 初期胚
の形態学的研究 11. 初期胚の生存環
境研究法 12. 初期胚の実験発生学的
研究法 13. 後期胚の実験発生学的研
究 14. 器官形成期における哺乳動物
胎仔の培養法 15. テラトーマ

生殖機能の組織学

哺乳動物のATLAS集

7月/新刊

菅原七郎・安田泰久・石田一夫・正木淳一／編集

B5判 392頁
定価 9800円
送料 400円

本書は、従来の組織形態学とは違い、哺乳動物の生殖機能の経時的な形態変化に焦点をあてた比較組織学である。各項とも生理的解説に機能形態像を併載して生殖機能を総合的・有機的に理解できるように工夫した。ラット・マウスの小動物からウマ・ウシ・ヒツジ等の大動物まで比較形態学的記載も多く、発生学、生殖生理学の研究や実習に至便である。



理工学社

〒113 東京都文京区本駒込5-9-10 振替東京 1-34676 電話 03(828)5211(代) <図書目録進呈>

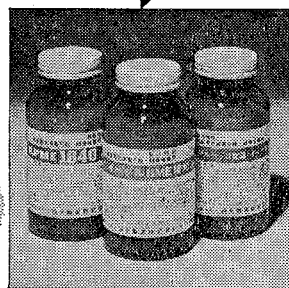
高压蒸気滅菌可能な組織培養培地



高压蒸気滅菌により、成分、細胞増殖支持力を損なうことなく、大量に、しかもスピーディーに滅菌処理できるニッセイの組織培養培地。従来のイーグルMEM培地に加え、3製品新発売。豊富な製品群から、用途に応じて適した培地を自由にお選びください。

新製品※製法特許・高压蒸気滅菌可能
グルタミン・重曹不含
■RPMI1640培地「ニッセイ」②・100g
新製品※製法特許・高压蒸気滅菌可能
グルタミン・重曹不含
■イーグルBME培地「ニッセイ」・100g
新製品※製法特許・高压蒸気滅菌可能
グルタミン・重曹不含
■ダルベッコ変法イーグル培地「ニッセイ」②・100g

新発売



※製法特許・高压蒸気滅菌可能 グルタミン・重曹不含
イーグルMEM培地「ニッセイ」①……………100g
※製法特許・高压蒸気滅菌可能 PR・グルタミン・重曹不含
イーグルMEM培地「ニッセイ」②……………100g
※製法特許・高压蒸気滅菌可能 KM・PR・グルタミン・重曹不含
イーグルMEM培地「ニッセイ」③……………100g
※製法特許・高压蒸気滅菌可能・浮遊培養用 グルタミン・重曹不含
イーグルMEM培地「ニッセイ」④……………100g
※製法特許・高压蒸気滅菌可能 アミノ酸4種・グルタミン・重曹不含
イーグルMEM培地「ニッセイ」⑤……………100g
※イーグルMEM
アミノ酸ビタミン培地「ニッセイ」……………20g

※重曹不含
199培地「ニッセイ」……………100g
※製法特許 重曹不含
ハムF12培地「ニッセイ」①……………100g
※重曹不含
RPMI1640培地「ニッセイ」①……………100g
※重曹不含
フィッシャーの培地「ニッセイ」……………100g
※抗生物質・重曹不含
ダルベッコ変法イーグル培地「ニッセイ」①……………100g
※重曹不含
ハンクス液「ニッセイ」①……………100g
※PR・重曹不含
ハンクス液「ニッセイ」②……………100g
※重曹不含
アール液「ニッセイ」……………100g
※無菌凍結乾燥
グルタミン「ニッセイ」……………0.3g
※ダルベッコ
PBS(一)粉末「ニッセイ」……………100g
※ダルベッコPBS用
金属塩類溶液「ニッセイ」……………10ml



製造発売元

日水製薬株式会社

本社 〒170 東京都豊島区駒込2-5-11

電話 03 (918) 8166(代)

営業所 東京・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡

SIGMA
PRICE LIST
APRIL 1977

**BIOCHEMICAL AND
ORGANIC COMPOUNDS**

for Research
and **DIAGNOSTIC
CLINICAL REAGENTS**

Telephone **COLLECT**
(Charges Reversed)
from Anywhere in the World

314-771-5750

TO PLACE AN ORDER
Tell your operator that you want to place a collect call "to anyone" at
Since this is our Order Department, you will receive our tests a bit later than you would if you ordered from our Sales Department. However, there's no need to wait for the name of the person you wish to place a purchase order later.

TO CALL OUR CUSTOMER SERVICE DEPT. 314-771-5765
for details of shipping or technical problems.
If you have any trouble getting better service at the close of business, please call our (Toll Free) 800-451-5750.

IT'S EASY TO ORDER from SIGMA

SIGMA シグマ製品がブ〜ンと お求めやすくなりました！

日本特殊薬品では、アメリカ・シグマ社と代理店
契約を結び、シグマ社最新カタログの全製品を、
下記の要領で簡単にお求めいただけます。

- シグマ社の製品一切は、ご使用者への直結販売にかぎります。
- 遠隔地への送品には、荷造り・送料を実費申し受けます。少量の場合には、代金引換えにてお願いすることがあります。
- 汎用品はできるだけ常蔵していますが、品切れ、その他の場合は約1カ月のうちに取りよめます。(船便のときは約2カ月後)

お問い合わせは下記へ

《シグマ社受権代理店》
日本特殊薬品株式会社

大阪市西区京町堀1丁目8番22号(〒550) ☎06(448)2261(代表)
私書箱番号(〒530-91) 大阪中央局第755号

SIGMA
PRICE LIST
APRIL 1977

**BIOCHEMICAL AND
ORGANIC COMPOUNDS**

for Research
and **DIAGNOSTIC
CLINICAL REAGENTS**

Telephone **COLLECT**
(Charges Reversed)
from Anywhere in the World

910-761-0593

TELETYPE—TWX Telex
We have a TWX machine and we receive it
If you have a TWX machine, please call us directly.
If you have a TWX machine, please call us directly.
Don't try to dial our TWX number on a regular telephone, you'll hear a busy tone.
You must have a teletype machine.
To call us "collect", we want a TWX or Telex machine, contact your teletype machine
sales representative.

Although we accept "collect" teletype messages, they are allowed for only a few
countries. Check with your teletype representative for details. If you cannot send
your messages "collect", we will be happy to remember the cost if you send in a copy
of the message and the charges.

Our newest hand-held is "SIGMA Collect". Although you may want to use it at
night, we cannot reply immediately. Our machine is unattended Monday through
Friday between 1700 and 2000, and all day Saturday and Sunday.

PLEASE HELP US TO HELP YOU
If at all possible, don't send us a CONFIRMING PURCHASE ORDER at all. It takes
a useful purpose after your phone order is shipped, and might result in a duplicate
shipment which is NOT returnable. We do not re-sell returned reagents.
If a purchase order MUST be sent anyway, be sure it is clearly marked
"CONFIRMATION, DO NOT DUPLICATE"

IT'S EASY TO ORDER from SIGMA

SIGMA
CHEMICAL COMPANY

＝ 三菱化成の ＝

なか しべ つ
中標津血清

採血より濾過精製まで一貫生産。

準胎児血清

生後24時間以内の仔牛より製造。 γ -グロブリン フリー

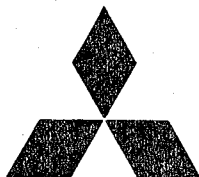
仔牛血清

生後2週間以内の仔牛より製造。

成牛血清

生後1～1.5年の牛より製造。

- 採血より濾過精製まで一貫製造しています。
- 無菌採血は、世界でも当社だけです。
- 原料牛は、大規模酪農地帯である北海道根室管内で産まれた健康な牛(ホルスタイン)だけを使用しています。
- 最終濾過は、孔径 0.1μ にて実施(成牛血清は 0.2μ)。



三菱化成工業株式会社 生化学事業部

〒100 東京都千代田区丸の内2-5-2(三菱ビル) ☎03(283)6791(直通)

三菱化成工業株式会社 大阪支店薬品課

〒541 大阪市東区伏見町5-1(大阪明治生命館) ☎06(208)4562(直通)

三菱化成工業株式会社 名古屋支店化成品部門

〒450 名古屋市中村区名駅3-28-12(名古屋ビル) ☎052(562)2551(直通)



We have cultured Human, Rat, Mosquito...

[illegible]

- Monkey
 - Kidney (African Green)
 - Kidney (Cynomolgus)
 - Tasticle (African Green)*
- Mouse
 - Embryo (Swiss)
 - Kidney (Swiss)
- Rat
 - Embryo
 - Kidney
- Hamster
 - Embryo
 - Kidney
- Rabbit
 - Kidney
- Guinea Pig
 - Kidney
- Chicken
 - Kidney
- Canine
 - Kidney
- Feline
 - Kidney
 - Lung
- Ferret
 - Kidney
- Bovine
 - Embryonic Kidney
 - Embryonic Lung
 - Embryonic Skin & Muscle
- Calf
 - Kidney

Human
A-549
Amador II
AV-3
Bac II
B6W10
Brl 7
Brl 8
C2W11
CCRF-CEM
CCRF-50
CCRF-HSB-2
Chang Converse
Chang Liver
CHP-3
CHP-4
Citridinemia
Crl du Chat
Derm 1
Detroit 6
Detroit 98
Detroit 98S
DSB 548
DSB/IAH-2
DSB/IAH-R
Detroit 510
Detroit 525
Detroit 529
Detroit 532
Detroit 538
Detroit 548
Detroit 550
Detroit 561
Detroit 562
Detroit 573
E-3
E.H.IV
FL
Flow 1000
Flow 2000
Flow 4000
Flow 6000
Flow 8000
Flow 8000
Flow 9000
Flow 10000
Flow 10000
Q-292 Clones A141B1
Q-3B1
Girardi Heart
HEL 299
Hel
Hela 229

Human	Mouse
Hela O10	A17-20
Hela C13	BalB/c 3T3 clone A31
HEP-2	BalB/3T3-2
MPF-1	CSH/MT172
HSP-1	C3H/10T1/2
HT-1080	C3H/MA clone 15
IMR-32	C3H/MA clone 16
HSP-1	C3H/MA clone 15
Insectin 407	C3H/MA clone 15
J-111	C3H/MA clone 15
Jijoye	C3H/MA clone 15
JOU	C3H/MA clone 15
L-1	C3H/MA clone 15
L-2	C3H/MA clone 15
L-3	C3H/MA clone 15
L-4	C3H/MA clone 15
L-5	C3H/MA clone 15
L-6	C3H/MA clone 15
L-7	C3H/MA clone 15
L-8	C3H/MA clone 15
L-9	C3H/MA clone 15
L-10	C3H/MA clone 15
L-11	C3H/MA clone 15
L-12	C3H/MA clone 15
L-13	C3H/MA clone 15
L-14	C3H/MA clone 15
L-15	C3H/MA clone 15
L-16	C3H/MA clone 15
L-17	C3H/MA clone 15
L-18	C3H/MA clone 15
L-19	C3H/MA clone 15
L-20	C3H/MA clone 15
L-21	C3H/MA clone 15
L-22	C3H/MA clone 15
L-23	C3H/MA clone 15
L-24	C3H/MA clone 15
L-25	C3H/MA clone 15
L-26	C3H/MA clone 15
L-27	C3H/MA clone 15
L-28	C3H/MA clone 15
L-29	C3H/MA clone 15
L-30	C3H/MA clone 15
L-31	C3H/MA clone 15
L-32	C3H/MA clone 15
L-33	C3H/MA clone 15
L-34	C3H/MA clone 15
L-35	C3H/MA clone 15
L-36	C3H/MA clone 15
L-37	C3H/MA clone 15
L-38	C3H/MA clone 15
L-39	C3H/MA clone 15
L-40	C3H/MA clone 15
L-41	C3H/MA clone 15
L-42	C3H/MA clone 15
L-43	C3H/MA clone 15
L-44	C3H/MA clone 15
L-45	C3H/MA clone 15
L-46	C3H/MA clone 15
L-47	C3H/MA clone 15
L-48	C3H/MA clone 15
L-49	C3H/MA clone 15
L-50	C3H/MA clone 15
L-51	C3H/MA clone 15
L-52	C3H/MA clone 15
L-53	C3H/MA clone 15
L-54	C3H/MA clone 15
L-55	C3H/MA clone 15
L-56	C3H/MA clone 15
L-57	C3H/MA clone 15
L-58	C3H/MA clone 15
L-59	C3H/MA clone 15
L-60	C3H/MA clone 15
L-61	C3H/MA clone 15
L-62	C3H/MA clone 15
L-63	C3H/MA clone 15
L-64	C3H/MA clone 15
L-65	C3H/MA clone 15
L-66	C3H/MA clone 15
L-67	C3H/MA clone 15
L-68	C3H/MA clone 15
L-69	C3H/MA clone 15
L-70	C3H/MA clone 15
L-71	C3H/MA clone 15
L-72	C3H/MA clone 15
L-73	C3H/MA clone 15
L-74	C3H/MA clone 15
L-75	C3H/MA clone 15
L-76	C3H/MA clone 15
L-77	C3H/MA clone 15
L-78	C3H/MA clone 15
L-79	C3H/MA clone 15
L-80	C3H/MA clone 15
L-81	C3H/MA clone 15
L-82	C3H/MA clone 15
L-83	C3H/MA clone 15
L-84	C3H/MA clone 15
L-85	C3H/MA clone 15
L-86	C3H/MA clone 15
L-87	C3H/MA clone 15
L-88	C3H/MA clone 15
L-89	C3H/MA clone 15
L-90	C3H/MA clone 15
L-91	C3H/MA clone 15
L-92	C3H/MA clone 15
L-93	C3H/MA clone 15
L-94	C3H/MA clone 15
L-95	C3H/MA clone 15
L-96	C3H/MA clone 15
L-97	C3H/MA clone 15
L-98	C3H/MA clone 15
L-99	C3H/MA clone 15
L-100	C3H/MA clone 15
L-101	C3H/MA clone 15
L-102	C3H/MA clone 15
L-103	C3H/MA clone 15
L-104	C3H/MA clone 15
L-105	C3H/MA clone 15
L-106	C3H/MA clone 15
L-107	C3H/MA clone 15
L-108	C3H/MA clone 15
L-109	C3H/MA clone 15
L-110	C3H/MA clone 15
L-111	C3H/MA clone 15
L-112	C3H/MA clone 15
L-113	C3H/MA clone 15
L-114	C3H/MA clone 15
L-115	C3H/MA clone 15
L-116	C3H/MA clone 15
L-117	C3H/MA clone 15
L-118	C3H/MA clone 15
L-119	C3H/MA clone 15
L-120	C3H/MA clone 15
L-121	C3H/MA clone 15
L-122	C3H/MA clone 15
L-123	C3H/MA clone 15
L-124	C3H/MA clone 15
L-125	C3H/MA clone 15
L-126	C3H/MA clone 15
L-127	C3H/MA clone 15
L-128	C3H/MA clone 15
L-129	C3H/MA clone 15
L-130	C3H/MA clone 15
L-131	C3H/MA clone 15
L-132	C3H/MA clone 15
L-133	C3H/MA clone 15
L-134	C3H/MA clone 15
L-135	C3H/MA clone 15
L-136	C3H/MA clone 15
L-137	C3H/MA clone 15
L-	

Hemiker
BIAFAP 28-G-3
B16-B10
BRK-21 (C-13)
Dise
Don
HMK
HPM 1848
V 32 BSA
Adenosine T Hemster Tumor
Polyoma Hemster Tumor
Rous Sarcoma Hemster Tumor
Spontaneous Hemster Tumor Control
S-49 Hemster Tumor
Rabbit
LLC-RK1
RA-6
S1 Ig E
SINC
TRK-1
Guinea Pig
OVA; clone 1
BT
BORNE
CPA
CPA
PFAHA
PFAHA
Buffalo
Bu
Horse
E. Serum
Canum
A-72
GSTR
D-17
DeCl
MOCK
ACFD
CPFE
FCPE
Potoroso
Pr-K1
Pr-K2
Mink
MLT Lu

Goat
LC 1 Es
Pig
LH-CPK;
PK (16)
Minipig
MPK
Indian Muntjac
Indian Muntjac
Raccoon
P1 1 Ut
Garbil
IMR-33
Dorphin
Sp 1 K
Bat
Tb 1 Lu
Duck
Duck Embryo
Goose
CGBQ
Frog
AB
FT
ICR 134
ICR 2A
Gekko
GL-1
Iguana
Igh-2
Terrapene
TH-1
Viper
V3W
V3W-2
Pisces
BF
BF-2
CAR
Grun Fin
FHM
RTG-2
Insects
Aedes triseriatus cells
Aedes aegypti
Aedes albopictus



大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪(06)384-1141(大代表)

1-4

タイターテック

マルチチャンネル ピペット

マイクロタイトレーションの手技において1回の操作で各列を同時に正確に液を滴下できます

- 先端のチップを交換すれば異種類の液も続けて
取扱うことができます。
- 種類 0.025ml、0.050ml、0.100ml、0.200ml、
(4列用、8列用、12列用)
0.005~0.050ml、0.050~0.200mlが1本で
処理できる バリアブル タイプもあります。

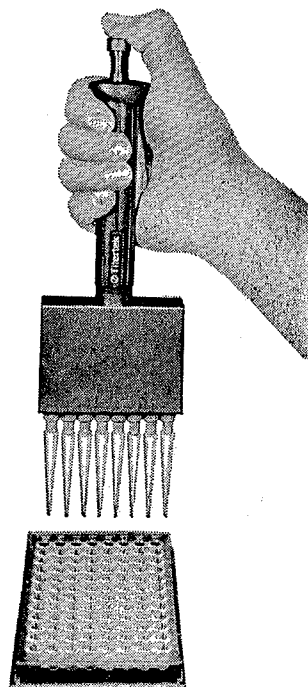
●お問合せおよびご注文は直接下記にお申しつけ下さい。



大日本製薬(株)総合研究所
 ラボラトリー プロダクツ部
 組織培養センター

〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
Tel 大阪 (06) 384 - 1141

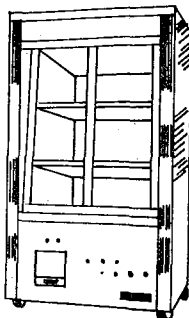
提携 Flow Laboratories Inc., U.S.A.



NK式生物研究用機器

NK式電気低温恒温器(送風循環型)

高精度普及型

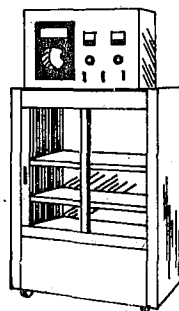


型式	LP-100 -S型	LP-150 -S型	LP-200 -S型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	26万円	30.5万円	32万円

※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プログラム電気低温恒温器(送風循環型)

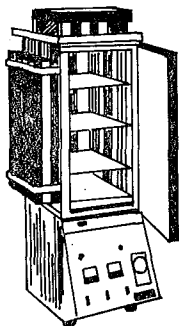
四季の温度がプログラムで自在に再現できます！



型式	LP-150 -3P	LP-200 -3P	LP-300 -3P
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	49.8万円	53.5万円	60万円

NK式人工気象器

植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派！

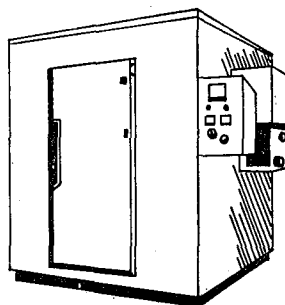


型式	LH-100 -RD型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	温度のみ 47万円	温・湿 度付 73万円	プログラ ム付 66万円

※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プレハブ電気低温恒温槽

組立、移設、増設が思いのまま！

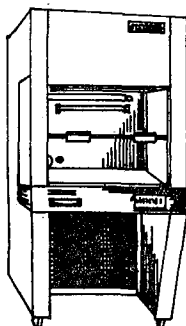


精密型

- LH型+5℃~45℃
価格1坪 1,190,000円
より各種
- LP型+18℃~45℃
価格1坪 1,290,000円
より各種

※詳細はプレハブシリーズカタログをご請求下さい。

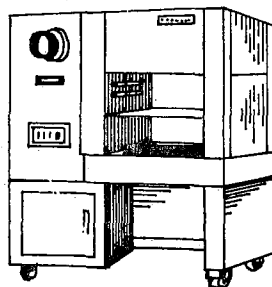
NK式クリーンベンチ(垂直層流型)



NKB-VS-850
¥780,000
NKB-VS-1300
¥880,000

NK式クリーンベンチ(垂直層流両面型)

無菌作業の能率アップに！



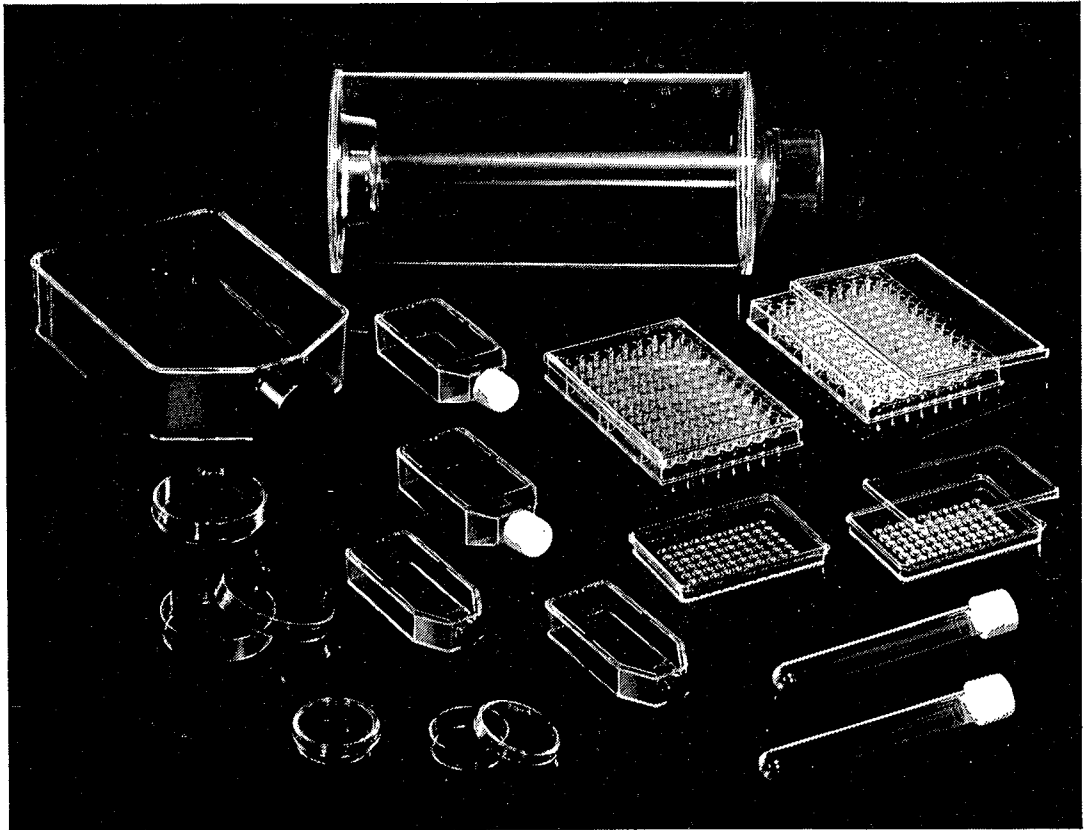
NKB-VW-850
¥1,200,000
NKB-VW-1300
¥1,500,000



株式会社 日本医化器械製作所

本社 〒550 大阪市西区江戸堀1丁目19番24号 電話 大阪 06(443)0712(代)
東京営業所 〒183 東京都府中市緑町7053-4 電話 府中 0423(65)3245(代)
工場 〒583 羽曳野市駒ヶ谷5番地47号 電話 羽曳野0729(58)1919(代)

組織培養器具は、 ファルコンの主流を成す分野です。



組織培養器具は、ファルコン社のあらゆる活動の中で、最も重視され、また注目されている分野です。

新しい可能性を有するすぐれた素材の研究。ユニークで大胆な発想に基づく製造方法の開発。滅菌法の改革や独自の品質管理システムの導入。

ファルコン社では、組織培養器具の分野において、常に新しい試みや研究活動が続けられています。

ファルコンの組織培養器具は、細胞の付着、増殖にすぐれた特性を有し、また光学的には透明で歪みが無く、しかも機能的にデザインされています。

すべてのファルコン組織培養器具は、品質検査に合格したことを示す品質管理証が添付されています。

Falcon[®] 組織培養器具

- マイクロテストプレート
- マルチウェルプレート
- 組織培養チューブ
- 特殊組織培養ディッシュ
- 組織培養ディッシュ
- 組織培養フラスコ
- 組織培養ローラーボトル

**BECTON
DICKINSON**

輸入販売元

Becton, Dickinson Overseas Inc.

ベクトン、ディッキンソン オーバーシーズ インク

〒107 東京都港区赤坂8 5 34 島藤ビル Tel.03(403)9991~5

製造元

Becton, Dickinson Labware

ベクトン、ディッキンソン ラブウェア事業部

Division of Becton, Dickinson and Company

- B-D、ファルコン、Falcon、マイクロテスト、マルチウェルはベクトン、ディッキンソン アンド カンパニーの商標です。
- Becton, Dickinson Labwareはベクトン、ディッキンソン アンド カンパニーの事業部です。